1. 認知症高齢者グループホーム 第三者評価報告概要表(WAM NET掲載用)

グループホーム むらおかの空

評価実施期間 平成18年 6月27日から平成18年 9月19日
 訪問調査日 平成18年 8月22日
 評価機関名 NPO法人 姫路市介護サービス第三者評価機構

評価調査者 2906: 第三者評価機構 事務局長
 2908: 介護支援専門員、介護福祉士

グループホーム所在地 美方郡香美町村岡区川合字滝ノ下13番地1
 開設年月日 平成16年 4月 1日
 定員 (2)ユニット (14)名

第三者評価結果
 全体を通して

社会福祉法人みかたこぶしの里のグループホームとして平成16年4月1日に設立され、事業所の建物1階には出入り口が別になった併設のデイサービスいそうの花があり、2階と3階にそれぞれ1ユニットのグループホームが設けられている。ホームは、兵庫県北部に位置し、附近には、神鍋高原や、八子高原があり、目と鼻の先に世界最大の木像三大仏と称される但馬大仏がある。ホームへは、姫路から車で2時間程で来ることができ、交通の便も良く、何よりもホームの傍を矢田川が流れ、山と緑に恵まれた景観に富む閑静な場所に立地している。近くの小代区で特別養護老人ホームも営む当法人では、基本理念として「ノーマライゼーション 人権の保障 生きがいの創造が掲げられ、利用者及びご家族にも明示され、しっかりと説明がされており、ホームの全職員に浸透している。ホーム玄関に入った1階の壁には、「一人ひとりの「生きる」そのことをめざして」が掲げられており、理念の具現化に向けた熱い思いがうかがえる。入居者の個人としての尊厳の大切さが、管理者・全職員に共有され、日常のケアサービスの中に活かされているのを感じる。入居者の表情は、穏やかで元気があり、ホームに閉じこもらないように付近の散歩や買い物等の外出をよく行い、食事作り、掃除、畑仕事等のいろいろな場面でそれぞれの力量に合った役割を持ち、自分の力を発揮している。この10月、香美町小代区の特養以外に、村岡区にも当法人による特養が新たに開設される運びとなっており、地域に置ける介護福祉の分野での社会的役割と責任はますます大きくなっている。法人代表者、管理者は認知症について理解を持ち、ケアの質の向上に関して熱意を持っておられる。法人代表者は熱心にホームに通われ、管理者との意思疎通もよく、また、管理者と職員とのコミュニケーションが図られ、連携も良いことから、今後、食事作りへの入居者の参画、金銭管理の支援、服薬の支援、及び職員の継続的な研修の受講等における諸課題の改善を進めていくことにより、ケアサービスの更なる質の向上に大いに期待が望める。

分野・領域別
 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化と共有		
2	権利・義務の明示		
3	運営理念等の啓発		
特記事項			
<p>法人の三つの理念が法人代表者、管理者及び職員全員に意識共有されており、日常の認知症ケアの具現化に努められている。また、地域における社会的役割を担うグループホームとして自覚をもたれ、ホームの考え方を伝えるために積極的に近隣地域へ広報の取組みが試みられている。今後は、更にグループホームとしての社会的役割を担うべく、一歩踏み込んだ独自の理念を確立され、日常ケアの場に活かされることを期待したい。</p>			

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
4	馴染みのある共用空間づくり		
5	共用空間における居場所の確保		
6	入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり		
7	身体機能の低下を補う配慮		
8	場所間違い等の防止策		
9	生活空間としての環境の配慮		
特記事項			
<p>ホームの廊下は広くゆったりとしており、安心感を感じる。リビングルームには、ソファが置かれ、窓の幅は広く、高さも足元から天井までである大窓になっているため、眼下に広がる川、山の四季折々の眺望を臨むことができ、入居者の心身を和ませている。ホーム内は静かで、穏やかなムードに満ちており、日々のケアにおける管理者・職員全員の入居者のケアに対するさりげない支援の工夫と配慮が伺える。今後は、1～3階のエレベーター前のホールの環境づくり、入居者の馴染みの品の持込みを増やすことについても、ご家族の協力を得ながら管理者・職員が一致して取り組むことで更なる成果が期待できる。</p>			

ケアサービス			
番号	項目	できている	要改善
10	入居者主体の個別具体的な介護計画		
11	介護計画の見直し		
12	個別の記録		
13	職員間での確実な情報共有		
14	チームケアのための会議		
15	入居者一人ひとりの尊重		
16	入居者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア		
17	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
18	一人でできることへの配慮		
19	身体拘束(行動制限)をしないケアの工夫		
20	食事作りへの入居者の参画と一人ひとりにあわせた調理		
21	個別の栄養摂取状況の把握		
22	食事を落ち着いて楽しむことのできる支援		
23	個別の排泄支援と羞恥心への配慮		
24	個別の入浴支援と羞恥心への配慮		
25	理美容院の利用支援		
26	プライドを大切にした整容の支援		
27	安眠の支援		
28	金銭管理の支援		
29	ホーム内の役割・楽しみごとの支援		
30	医療関係者への相談		
31	定期健康診断の支援		
32	心身機能の維持		
33	トラブルへの対応		
34	口腔内の清潔保持		
35	服薬の支援		
36	緊急時の手当		
37	感染症対策		
38	ホームに関じこもらない生活の支援		
39	家族の訪問支援		
特記事項			
<p>毎朝のミーティング及び月1回開催される運営委員会の会議結果は、記録に残して、不在者には確実に伝達されている。法人理念の基に日常生活行為の中で、ケアサービスはもとより言葉かけや礼儀等においても人格の尊重がなされており、身体拘束はしないことをホームが一丸となって取り組んでいる。入居者一人ひとりの過去の経験や希望の表出、及び一人でできることへの配慮も適切に行われている。日常生活行為における排泄・入浴・整容・安眠等についても、入居者のプライドを大切に支援がさりげなく行われている。今後については、ケアプランの作成について、入居者一人ひとりのご家族の意見・希望を取り入れ、全職員の参画のもと作成されることが望まれる。食事作りへの入居者の力量に応じた参画を更に進められること、及び服薬の支援及び緊急時の手当に関する改善を期待したい。緊急時に不安なく対応できるために、定期的な訓練・研修の計画及び実施を望む。</p>			

運営体制			
番号	項目	できている	要改善
40	法人代表者、管理者、職員の協働		
41	入居者の状態に応じた職員の確保		
42	継続的な研修の受講		
43	ストレスの解消策の実施		
44	退居の支援		
45	ホーム内の衛生管理		
46	事故の報告書と活用		
47	苦情への的確で迅速な対応		
48	家族とのコミュニケーション		
49	地域の人達との交流の促進		
50	周辺施設等の理解・協力への働きかけ		
51	ホーム機能の地域への還元		
特記事項			
<p>法人代表者、管理者、職員のケアサービスの質の向上に対する意識が高く、協働の体制が良くとれていると言える。管理者と職員間のコミュニケーションがよく、日々の連携が良くとれていることがうかがえる。ホームと地域との交流については、近隣の老人会からの呼び掛けに応じて積極的に交流がもたれており、日常生活行為の中で買い物、散歩、理美容院の利用、地域での盆踊り、学校の運動会等を通じての理解、協力への働きかけもされており、また、ボランティアや研修生の受け入れだけでなく、近隣の公民館に出掛けて事業所の紹介を行うなど広報に積極的な取組みがあることを評価したい。一方、当ホームでは、2階と3階に各々1ユニットづつに分かれており、3階の重度者のケアの関係上、職員の勤務カレンダーは両ユニットを兼務する形で組まれている。グループホーム本来の小規模ユニットでのチームケアの観点からは改善されるべきである。また、現状では、夜勤時において夜勤者の配置が一人であるため、一人で2階と3階の2フロアを見る状態にある。夜間における事故発生の事例もあることから、入居者及びご家族、職員が安心して自由な安らぎのある生活をしていくためにも、人員配置の面での対応が強く望まれる。</p>			

2. 認知症高齢者グループホーム 第三者評価報告書(WAM NET掲載用)

項目番号 第三者自己	項目	できて いる	要改善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
運営理念 1. 運営理念の明確化						
1	1	理念の具体化と共有 管理者は、認知症高齢者グループホーム(以下「グループホーム」という。)に関わる法令の意義を理解しており、これを自らが所属するグループホーム(以下「ホーム」という。)の運営上の理念・方針や目標等に具体化し、介護従業者や利用者及びその家族等に伝わるように明示し、かつ、説明している。			法人理念をホームの理念とし、管理者は毎日のミーティング等でも話し合い、運営上の方針や目標に具体化するように取り組んでいる。また、利用者及びご家族にも重要事項説明書にて明示し、説明されている。しかしながら、グループホーム独自の理念としては、確立されていない。	法人理念を基盤に、認知症ケアを担う当地域におけるグループホームとしての社会的役割を改めて認識の上、グループホームとして一歩踏み込んだ個別の理念を確立することが求められる。
2	3	権利・義務の明示 利用者の権利・義務を利用案内時の説明文書及び契約書に分かりやすく示し、かつ、入居者及びその家族等に説明し同意を得ている。			契約書及び重要事項説明書に事業所及びご利用者・ご家族の義務についての明確な記載を確認できるが、契約行為に慣れないご利用者及びご家族にとっての権利を明確に示したものが無い。	NPO 全国認知症高齢者グループホーム協会の「利用者・家族の権利」を参考に明文化し、利用者・ご家族や職員間で共有できるようにすることを望む。
2. 運営理念の啓発						
3	4	運営理念等の啓発 ホームの運営理念や役割が地域に理解されるよう、ホームの考え方を伝える機会づくりや広報に取り組んでいる。(ホームの説明会、ホーム便り等)			法人が年3回発行する広報誌「生きる」は、地域の香美町村岡区・小代区の約6,000余りの居住者に新聞の折込みで配布されている。そこでは、当ホームのサービス紹介だけでなく、ホーム側の取組み・考え方を掲載し、広報として取り組まれている。	
運営理念 3項目中		計	1	2		
生活空間づくり 1. 家庭的な生活空間づくり						
4	5	馴染みのある共用空間づくり 共用の生活空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、いずれも違和感や威圧感を感じさせず、馴染みの安心できる雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾もそのための工夫がされている。特に玄関周りは家族や近隣住民も入りやすいよう草花を植える、親しみやすい表札をかける等の配慮をしている。			玄関入口には、花が植えられ、ホームの廊下や食堂には習字や装飾があり、季節感も感じられるように工夫されている。しかしながら、ホーム各階のエレベーター前のホールはともに殺風景な感じがした。入居者が外から帰ってきた折に、ほっと安心感を覚えるような馴染みの空間としての工夫が欲しい。また、1階エレベーター前のホールには、案内標識がない。	1~3階の各エレベーター前のホールは広くはないが、1階のエレベーター前のホール辺りに初めての訪問者にも分かりやすい案内標識を設置され、2階・3階のエレベーター前のホールに観葉植物とか、装飾物で飾るなどして、ゆったりとした入りやすい雰囲気づくりの工夫が欲しい。

項目番号	項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
5	6 共用空間における居場所の確保 共用空間の中に、入居者が一人になったり気のあった入居者同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。				入居者が集う場としてのリビングキッチンには、ソファを配置し、自由に過ごせる場所となっている。また、少し離れた廊下のスペースには入居者数人が過ごすことのできる場所が確保されており、一人静かに過ごす場所としても活用されるようになっている。	廊下のスペースが広くゆったりとしているので、このスペースを活かして椅子を置くなりして、入居者が一人になるなど思い思いに過ごすことのできる2番目の居場所として確保してはどうか。
6	7 入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり 居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。				ベッド、タンスはホームが用意したものが使用されている。仏壇、家具、テレビ等を持ち込まれている入居者の方も少しおられるが、全体的に持ち込みの品が少なく生活感が乏しく感じた。	本人が長年なじみにされていたものが、本人にとって大きな安らぎと落ち着きを与えることを今一度ご家族に説明して、働きかけをされて協力を求め、写真、花瓶、絵等の入居者にとって馴染みのある品の持ち込みを増やしてどうか。
2. 心身の状態にあわせた生活空間づくり						
7	9 身体機能の低下を補う配慮 入居者の身体機能の低下にあわせて、安全かつできるだけ自立した生活を送れるようにするための設備や工夫がある。(すべり止めや要所への手すり等の設置、浴槽・便座・流し台等の使い勝手の工夫、物干し等の高さの調節等)				廊下やトイレの手すりの設置に加え、浴室、脱衣場にも手すりが設置され、移動時に利用されている。段差については、脱衣場の入口に一箇所段差がある以外、段差のない構造になっている。	脱衣室の出入りの際に、つまずかないように何らかの工夫が欲しい。また、洗濯物の干し場の物干し竿の高さが高いので、入居者が作業をされる場合を想定して、その為に使用する踏み台のようなものを工夫されてはどうか。
8	11 場所間違い等の防止策 職員は、入居者一人ひとりがホーム内の場所が分かるかを把握しており、家庭的な雰囲気をこわさず、場所の間違いや分からないことでの混乱を防ぐための工夫をこらしている。(トイレや部屋の目印等)				居室の入口には、木製の表札が設置されている。トイレには分りやすく大きな字でトイレの表示がされており、花飾りで識別されて、場所間違いを防いでいる。	トイレから離れた場所においても、トイレがどこにあるかを分りやすく指し示す案内標識が欲しい。
9	12 生活空間としての環境の配慮 入居者が落ち着いて暮らせるように、音の大きさや光の強さに配慮し、換気、温度調節を適切に行っている。(テレビ、職員の会話のトーン、照明の強度、まぶしさ、日射し、冷暖房の調節等)				テレビの音量、室内の照明は入居者が落ち着いて暮らせるように配慮されている。大窓のあるリビングルームには、西日が当たりやすいが、カーテンで日差しをさえぎるように配慮されている。換気にも配慮し、温度調節は体感により職員が冷暖房の温度調節をしている。職員の会話のトーンも低く、ゆったりとしている。	温度調節は、体感ではなく、湿・温度計を設置されて、調節されることが望ましい。
生活空間づくり 6項目中 計		5	1			

項目番号	項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
ケアサービス1. ケアマネジメント						
10	15				介護計画は、計画作成担当者が、日々のアセスメントを基に、作成している。しかしながら、書式としては整ってはいるが、プラン作成時に本人・家族の意向の参加には至っておらず、意向を含んだアセスメントの記載も見当たらない。	入居者一人ひとりに応じてアセスメントをきっちり取り、家族の意見・本人の希望を必ず取り入れて介護計画を作成されることを望む。
11	16				介護計画は6ヶ月一度は見直しが行われ、状態の変化に応じて随時の見直しが行われている。また、実施期間も設定され、確実に行われている。	
12	17				介護経過記録にて、個々の状況が細かく分析され、記録されている。また、モニタリング(評価)も合わせて行われている。	本人の言葉や行動、生活歴などの情報や観察・希望など、介護計画に反映させるために、更に、記録として充実して欲しい。
13	18				重要事項の伝達は、毎朝9時半に行われるミーティングにて共有され、ミーティングでの内容は、連絡帳に記録されて、不在者及び夜勤者にも共有される仕組みが作られている。しかしながら、介護計画の作成に関しては、介護計画作成担当者のみが関わり、職員全員が関わっていない。	ケース検討会議には、職員全員が関わり、共有できる仕組みを作っていたきたい。
14	19				2階に1ユニット、3階に1ユニットの構造上の特徴と3階に重度の入居者がいることから生ずる職務負荷の偏重を少なくする為、職員の勤務カレンダーは、両ユニット兼務の勤務カレンダーとなっている。グループホーム本来の特色である小規模なユニットごとのチームケアが機能している状態とは言い難い。	ホーム側の都合に合わせるのではなく、入居者のケアに合わせたユニットごとのチームケアに、早く戻され、ユニットごとのチームケアの会議が定期的開催されることを望む。

項目番号	項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
第三者 自己						
2. ホーム内でのくらしの支援(1)介護の基本の実行						
15	20				管理者、職員ともに法人理念のひとつである「人権の保障」について良く認識されており、入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応はされていない。食事や移動時等の介助もさりげなく、入居者に合わせ、毎日のケアに活かされている。	本人にとっての誇りやプライバシーが見極められ、その人に合わせた言葉かけや対応が概ねされているが、一部で、不適切な言葉使いも垣間見られた。
16	23				入居者一人ひとりの入居前の生活歴や過去の経験、思い出、趣味などが情報として把握され、記録されており、職員の共通認識のもと、毎日のケアに活かされている。	モニタリング表の所定の箇所に、入居者一人ひとりについての過去の経験、思い出、趣味等の情報を集約して記載する箇所が設けられておれば運用しやすいのでは。
17	25				入居者が言葉では十分に意思表示できない場合であっても、表情やしぐさなどから意図を注意深く観察しながら、本人の希望や好みを把握し支援している。	
18	27				食事の時は、一方的に介助するのではなく、本人のペースに合わせて自分で食べられるように辛抱強く待って、見守りをしていく。また、食後に自身の器を自分で洗い場まで持って行き、洗われている方もおられた。廊下の清掃は、個々に応じた必要な支援を受けながらも入居者が行っている。	入居者一人ひとりには、まだまだ秘められた力が残っている。入居者一人ひとりの力量に応じて、いろいろな場面で残された力が自然に発揮できるように、ゆったりと待つ姿勢で、残された力を見出し、活かそうとする姿勢を大切にしていきたい。
19	29				身体拘束(行動制限)をしないケアの工夫 身体拘束に関する知識をすべての職員が正しく理解しており、やむを得ず行う場合は、その根拠が明白で、その理由を家族に説明している。玄関の施錠もしない工夫をするなど入居者に閉塞感を与えないよう配慮している。(行動の傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	身体拘束は人権侵害という信念のもと、拘束になる行為は全くされていない。また、研修にも取り上げ、拘束のない介護を実践することを確認している。

項目番号	項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
(2) 日常生活行為の支援 1) 食事						
20	31	食事作りへの入居者の参画と一人ひとりにあわせた調理献立づくりや食材選びを、入居者と共に行っており、可能な限り買い物や調理も一緒に行っている。意思の確認が困難な場合には、好みを把握して献立や調理に活かし、身体機能や健康状態にあわせた調理方法を行っている。			買い物は入居者とともに出かけ、食事作りは可能な限り入居者は参画しているが、献立づくりは職員が行っている状態にある。食事は希望の表出、五感刺激に結びつく場面が多く、認知症の人にとって食の意味は非常に大きいので、改善を望みたい。	食事作りへの入居者の参画、及び希望の表出の機会作りになる献立づくりへの参画は、たとえ徐々にであれ今後実施されるよう期待する。
21	34	個別の栄養摂取状況の把握 入居者一人ひとりの摂取カロリーや水分摂取量、栄養バランスを、一日全体を通じておおそ把握している。			一人ひとりの水分摂取量や食事量のチェックが不完全であり、把握できてはいない。	水分チェック表、及び食事量(残食量)の記録を残されることを望む。また、摂取カロリー及び栄養バランスの把握については、併設しているデイサービスの栄養士に相談されることを望みたい。
22	36	食事を落ち着いて楽しむことのできる支援 入居者は茶碗や湯呑み、箸など、馴染みの、または家庭的な食器を使っており、職員も入居者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。			入居者は茶碗、はし、湯呑みなど馴染みのものを使用している。また、職員は入居者にゆったりとした調子で声かけ、話かけを行いながら一緒に食事を楽しんでいる。	
2) 排泄						
23	37	個別の排泄支援と羞恥心への配慮 おむつをできる限り使用しないで済むように、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っており、同時に排泄の誘導や介助、失禁への対応は不安や羞恥心、プライバシーに配慮している。			排泄チェック表を活用し、排泄パターン、排便間隔の把握をされており、個別的に場所や体調などのタイミングをはかって、そっと付き添うなどプライバシーに配慮した対応がなされている。また、排泄用品については、可能な限りおしめを使用せずに過ごしてもらえることを基本に、おしめ使用については、都度ミーティングで話し合われている。	
3) 入浴						
24	41	個別の入浴支援と羞恥心への配慮 入居者一人ひとりの希望にあわせ、くつろいだ入浴ができるように支援しており(時間帯、長さ、回数等)、同時に誘導、着脱衣、洗身、洗髪、浴槽への出入り等は不安や羞恥心、プライバシーに配慮している。			入浴は、個々の思いに合わせて一人ひとりゆっくり入浴できる。入浴の時間帯は16時からとなっているが、希望があれば午前中の入浴も可能である。基本的に1日おきの入浴が可能であるが、希望により毎日入浴されている方もある。	現在、夜間入浴を希望される方はいないが、今後は、夜間などの入浴対応についても検討されることを期待したい。

項目番号	項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
4) 整容						
25	43	理美容院の利用支援 入居者一人ひとりの希望にあわせて、理美容院の利用を支援している。(カット、パーマ、染め、セット等)			入居者は近隣にある理容室、美容院を利用し、必要に応じて車で送迎している。毛染めやパーマ等も本人の希望に応じて対応がされている。	
26	44	プライドを大切にした整容の支援 整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)			食べこぼし等の汚れがあれば、直ぐに別の衣類に交換され、また、履物に関しても、古くなれば都度、新しいものを購入されるなどして、整容の乱れのサポートがされている。	
5) 睡眠・休息						
27	47	安眠の支援 入居者一人ひとりの睡眠のパターンを把握し、夜眠れない入居者には、1日の生活リズムづくりを通じた安眠策を取っている。			より良い入眠が得られるよう日中の活動を活発にすることで、自然な安眠策に取り組んでいる。入眠剤使用者は、現在1名である。	
(3) 生活支援						
28	51	金銭管理の支援 入居者が自分でお金を持つことの大切さを職員が分かっており、家族等とも相談して可能な限り日常の金銭管理を本人が行えるよう、入居者一人ひとりの希望や力量に応じて支援している。ホームが代行管理している場合は定期的に家族に出納状況を報告している。			現在、金銭管理の可能な方は2人で、残りの14人については、ホーム側が全面的に支援している。ホーム側が金銭管理を代行している方には四半期ごとに出納状況を家族に報告している。	あたりまえの暮らしの中で、お金抜きの暮らしは考えられないことを職員が改めて理解、認識していくことが大切である。その上で、入居者一人ひとりの力量に応じて支援していくことを根気強く進めていただきたい。
(4) ホーム内生活拡充支援						
29	53	ホーム内の役割・楽しみごとの支援 ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみごとや出番を見い出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。(テレビ番組、週刊誌、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、小動物の世話、新聞取り等)			食事の準備・後片付け、洗濯物干し・洗濯物たたみ、掃除等の家事全般において、何らかの役割を持って行えるように支援されている。	

項目番号	項 目	できて いる	要改善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
(5) 医療機関の受診等の支援						
30	55 医療関係者への相談 心身の変化や異常発生時に、気軽に相談できる医療関係者を確保している。(医師、歯科医師、保健師、看護師等)				協力医療機関が確保され、随時の受診や電話相談がされており、緊急時の対応も可能である。	
31	61 定期健康診断の支援 年に最低1回は、健康診断や医師の指導を受けられるように支援している。開設間もないホームは、健康診断を受けられる準備や体制を整えている。				定期の受診(1ヶ月に1~2度程度)の中で医師の指導等を受けているが、定期健康診断は受けていない。	ご家族とも相談し、協力医療機関、または各人の主治医や、町の基本健康診査を利用するなどして、1年に1回は定期健康診断を受けられるようにしておくことを望む。
(6) 心身の機能回復に向けた支援						
32	63 心身機能の維持 認知症の人の心理状態の特徴や身体面の機能低下の特徴を理解し、五感への働きかけ、見当識維持の工夫、買い物や散歩、調理、楽しみごと等の日常生活の中で自然に維持・向上するように取り組んでいる。				散歩、買い物、家事、畑仕事等の日常生活行為を通して身体機能低下の防止に努めることがケアの大切な部分であることを全職員がよく理解し、実践されている。また、塗り絵、生け花、習字、キーボード等の趣味のある方には、入居者の活動意欲を触発するようにさりげない支援が行われている。	認知症の人は、加齢と共に特に身体機能の低下が早く進むことを念頭に置き、当ホームが、町中と違い、山川の自然環境に恵まれている利点を活かして、外出の機会を増やされることで支援されることを期待したい。
(7) 入居者同士の交流支援						
33	65 トラブルへの対応 職員は、入居者同士のけんかやトラブルの原因(体調不良、相性等)を把握し、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の入居者に不安や支障を生じさせないようにしている。				特定の入居者の心身の混乱によるトラブルが発生した折、職員はその場から穏やかに引き離し、その場の雰囲気や和ませ、他の入居者への悪影響を和らげる働きかけがされていた。また、ミーティングにおいて原因を究明し、同じトラブルが発生しないよう、対応についても職員の共有が図られている。	
(8) 健康管理						
34	67 口腔内の清潔保持 入居者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)				毎日、入眠前にはポリデントによる義歯洗浄と歯磨きを勧め、ご自分で出来る方には、可能な限り自力での行為を促す支援がされている。	毎食後にうがいと口腔チェックの支援をされることを望みたい。小さな行為の積み重ねが、習慣となっていくことを期待したい。

項目番号	項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
35	70 服薬の支援 職員は、入居者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、入居者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。				職員は薬の内容(目的、用法、用量、副作用)を把握しており、医師の指示どおりに本人が服薬できるように支援されているが、服薬チェック表(管理表)による管理がされていない。	服薬の間違い防止のために、入居者各人の処方箋が添付された服薬管理表を作成し、個人別管理をされることを望む。
36	72 緊急時の手当 入居者のけが等の緊急時に、職員は応急手当を行うことができる。(けが、骨折、発作、のど詰まり等)				緊急時に対応できるためのマニュアルは作成され、使用物品の整備もされて、職員に周知はされているが、定期的な訓練及び研修はされていない。	夜間における事故発生事例を鑑み、地域で行われる心肺蘇生法の講習会への参加、及び誤嚥、転倒、意識レベル低下等の職員研修を年間計画に組み込み、実施されて緊急時対応の体制を整えられることを強く望む。
37	73 感染症対策 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA等)				感染症に対する予防や対応のためのマニュアルは作成され、ミーティングを通じて全職員に周知徹底されている。	入居者一人ひとりには、特徴・個人差があるため、個別の対応策(取り決め)を作成され、研修を通じて共有されることが望ましい。
3. 入居者の地域での生活の支援						
38	77 ホームに閉じこもらない生活の支援 入居者が、ホームの中だけで過ごさずに、積極的に近所に出かけて楽しめるような雰囲気を作っている。(買い物、散歩、近隣訪問、集会参加等)				日常的な買い物、散歩や、地域の運動会、盆踊り、花祭りなどの催し物に積極的に出掛けている。ホーム側は、その日の天候を見ながら出来るだけ外の空気に触れるよう対応されている。	
4. 入居者と家族との交流支援						
39	81 家族の訪問支援 家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。(来やすい雰囲気、歓迎、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)				家族の訪問時には、職員は気持ちのよい挨拶で迎え、来やすい雰囲気を作っている。また、居室にてゆっくりと過ごしてもらえるように配慮されている。	家族の宿泊の事例はないが、各ユニットにある和室での宿泊が可能である。
ケアサービス 30項目中		計	21	9		

項目番号	項目	できて いる	要改善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
運営体制 1. 事業の統合性						
40	83 法人代表者、管理者、職員の協働 法人代表者及び管理者は、ケアサービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任をふまえて、職員の意見も反映させながら共に運営に取り組んでいる。				法人代表者と管理者、職員の連携が十分にとれており、それぞれの立場でグループホームのケアの質の向上に取り組む協力体制がある。管理者と職員間のコミュニケーションは良く、込み入った内容については、提案箱を活用して意見が提出され、ミーティング及び月1回ある運営委員会でも話し合わせ、その結果の共有も行われている。	法人代表者の意識は高く、週3回はホームに足を運び、管理者と話し合われており、また、介護現場を見るなどされ、積極的に協働していく姿勢がうかがえた。
2. 職員の確保・育成						
41	87 入居者の状態に応じた職員の確保 入居者の状態や生活の流れを支援するために、これに即した職員の勤務ローテーションを組んでいる。				職員の中には、2階と3階にある各ユニットを兼務する勤務カレンダーの基、勤務されている。グループホームでは、入居者や家族と職員の馴染みの関係が大きな意味を持つことから、職員の顔ぶれが多岐にわたることが不安・不信を与えることになりやすい。また、夜勤者が1人で階層の分かれた2ユニットを看る勤務体制は、入居者・ご家族及び職員双方にとっても不安な材料である。	入居者との馴染みの関係のため、また、ユニットごとのゆったりとした安心のあるケアを推進するためにも人員配置がユニットごとの体制になることを望む。また、何らかの形で夜勤者を1人増やされ、ユニットごとのケアが安心して行われる体制作りを望む。
42	89 継続的な研修の受講 職員が、採用時、フォローアップ等それぞれの段階に応じた研修を受講し、その内容をすべての職員に周知している。				平成18年1月～2月にかけて階層別研修が実施され、管理者、職員の研修についての取組み意欲は高く評価できるが、年間の研修計画を立てて、職員が研修を確実に受講できるようにはなっていない。	年度単位で年間研修計画を立て、計画に沿って実施されることを望む。また、研修実施記録を残されることを期待する。
43	91 ストレスの解消策の実施 職員の業務上の悩みやストレスを解消する方策を採り入れている。(外部者と接する機会、職員相互の親睦、悩みの聴取、スーパーバイザーの導入等)				法人の職員親睦会が結成されており、親睦旅行、忘年会などの年間行事が行われているが、参加者は少ない。職務上の相談は、現在のところ主任や管理者が受けている。	入居者に適切なケアサービスを前向きに提供していくためには、職員がストレスをためないようホームとして組織的に職員のストレス緩和を図る必要がある。知っている者が手軽にできるものや小規模のコミュニケーション作りなどの工夫に取り組むとともに同業他社との交流や意見交換に取り組んではどうか。
3. 入居時及び退居時の対応方針						
44	95 退居の支援 退居は、契約に基づくとともにその決定過程が明確である。また、入居者や家族に十分な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。				病院へ1人、長期入所のため特養へ2人が退去されたが、いずれの場合にも、入居者及びご家族に十分な説明が行われ、本人の状態にあった退去先に移れるよう各関係機関と連絡調整が行われて、支援されている。	

項目番号	項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
4. 衛生・安全管理						
45	98	ホーム内の衛生管理 ホーム内の清潔や衛生を保持している。(食品、布巾、包丁、まな板、冷蔵庫、洗濯機等)			毎週水曜日に冷蔵庫の中の掃除・整理を行うと共に、まな板、包丁、布巾等をハイターで漂白・殺菌するなどして、定期的に清潔の保持及び衛生管理を行うようにされている。	清潔保持、及び衛生管理についての職員間の考え方の違いや方法のずれを防ぐために、手順書を作成され、徹底されることを望みたい。冷蔵庫内の開封した食品については、袋に開封日を記載して消費期限を管理されると良いのでは。
46	102	事故の報告書と活用 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生した場合、事故報告をまとめており、サービスの改善につなげている。(再発防止の話しあい、今後活かす意義づけ等)			事故報告書がまとめられており、事故発生の際、原因の分析及び今後の対応策が報告されて、再発防止に努められている。	
6. 相談・苦情への対応						
47	106	苦情への的確で迅速な対応 相談や苦情を積極的に受ける姿勢があり、入居者や家族から苦情が寄せられた場合には、職員で速やかに対策案を検討して回答するとともに、サービス改善につなげている。			相談・苦情を受け入れるホーム側の窓口担当者は明確であるが、これまでこれといった事例はなく、相談・対応の記録の書式は定められていない。	相談・苦情の対応書式を作成することを望む。また、相談・苦情を前向きにとらえ、ご家族には相談・苦情を気軽に言ってもらえるように日頃から働きかけて欲しい。
7. ホームと家族との交流						
48	107	家族とのコミュニケーション 定期的に家族とコミュニケーションをとり、入居者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行や行事ビデオの上映、写真の送付等)また、同時に、家族が気がかりなことや、意見、希望を気軽に伝えたり相談したりできるように積極的に働きかけている。			毎月1回家族へ請求書と一緒に入居者の体調面等、近況をしたためたメッセージを送り、報告している。家族の訪問時には、都度、状況を説明している。	
8. ホームと地域との交流						
49	112	地域の人達との交流の促進 地域の人達が、遊びに来たり立ち寄ってくれたりするように取り組んでいる。			近隣の老人会から声掛けがあり、昨年春、夏の年2回の割合で、1階デイサービス会場において交流会を開催した。近所に小学校・中学校・保育園があり、交流の機会作りに取り組んでいるが、日常的に地域の人達が立ち寄ってくれる回数は少ない。	今後とも根気強く取組みをの努力を継続して欲しい。

項目番号		項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
第三者	自己						
50	114	周辺施設等の理解・協力への働きかけ 入居者の生活の安定や拡がりのために、周辺地域の諸施設から協力を得ることができるよう、理解を拡げる働きかけを行っている。(商店、福祉施設、警察、消防、文化教育施設等)				買い物、散歩、理美容院等あたりまえのくらしができるよう、近所と顔見知りの関係を築こうとする取り組みがされている。普段から近隣の商店、保育園、学校などの文化教育施設に働きかけがされている。	入居者が出掛ける場所は、入居者の日常の活動の場所であり、見守り手となる存在である警察、消防署等にも働きかけを期待する。
51	115	ホーム機能の地域への還元 ホームの機能を、認知症ケアに関わる知識・技術等を、入居者のケアに配慮しつつ地域に開放している。(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)				随時、ボランティアや視察研修の受け入れが行われている。また、この春、石生地区に出掛けて行き、公民館において、地域の人々に向けて施設の内容紹介や、レクリエーション等の研修を行っている。	当ホームが、当地域において認知症ケアに関する理解・知識、実践を地域の人たちに伝えていくことは、固有の使命と言える。引き続き今後も、地域の研修や啓発の場に職員等が出て、グループホームの成果を伝える試みを期待したい。
運営体制 12項目中 計			8	4			

- (1)「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
(2)「職員」には、管理者及び非常職員を含む。